

月刊しばうら 2025年11月号

令和7年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産大臣賞に 宮城県 仙台牛銘柄推進協議会 鈴木 教一 様

枝肉単価 13,085円で (株)丸富商店 が落札

令和7年度全国肉用牛枝肉共励会が、10月28日から10月31日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ1道1都1府29県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛69頭、第二部 和牛去勢牛263頭、第三部 和牛牝牛168頭の合計500頭で開催されました。名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛の175号は、宮城県から出品された仙台牛銘柄推進協議会 鈴木 教一様の出品牛で、父が「夏百合」、母の父が「勝早桜5」、出生地が宮城県栗原市の自家生産で、月齢30ヶ月、生体重800kg、枝肉重量551kg、歩留68.9%、格付A5（BMSNo. 12）、ロース芯の面積が118cm²、バラの厚み9.7cm、皮下脂肪の厚さ1.3cmで、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサン抜けが良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れ正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は13,085円で、（株）丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた仙台牛銘柄推進協議会 鈴木 教一様は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 栃木県の高瀬 裕之様の29号牛が、枝肉単価2,615円で（株）丸富商店、第二部 茨城県の(有)高萩畜産様の233号牛が枝肉単価5,301円で（株）スズチク、第三部 三重県のなかお畜産（株）様の516号牛が6,616円で（株）中村畜産により落札されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部 乳用・交雑去勢	69	974	1,149	759	646	771	515	66.4	72.9	60.8	1,635	2,615	1,410
第2部 和牛去勢	262	865	1,051	701	600	722	466	69.3	74.5	62.8	2,690	13,085	1,995
第3部 和牛牝	163	734	908	585	503	658	375	68.6	73.6	62.1	2,938	6,616	2,076

本共励会の出品牛は500頭でしたが、1頭が検査保留となり上場できませんでした。また、本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部51頭、和牛牝の部で19頭の合計71頭が審査対象外となりました。審査の対象となったのは429頭でした。

牛肉営業部

<10月の相場動向>

10月は後半になって、北・東日本で気温が平年よりも低い日が続いたため、スライス材への需要シフトが例年よりも早く進み、荷動きは安価な部材を中心に活発となった。その結果、相場は全ての畜種・等級で前年同月比・前月比ともに上昇している。特に交雑・乳牛については、前年11月の平均相場をも上回る水準となった。和牛経産牛の2等級も、前年同月比で約30%上昇している。

一方で購買者からは「例年より相場上昇のタイミングが早く、上げ幅も大きいため、末端がついてきていない。」との声も聞かれた。

和牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,528 円	+31 円	101.2%	+110 円	104.5%
A4	2,254 円	+151 円	107.2%	+145 円	106.9%
A3	2,131 円	+172 円	108.8%	+137 円	106.9%
A2	1,907 円	+210 円	112.4%	+309 円	119.3%

交雑去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,765 円	+72 円	104.3%	+89 円	105.3%
B3	1,609 円	+38 円	102.4%	+86 円	105.6%
B2	1,487 円	+33 円	102.3%	+90 円	106.4%

乳牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,209 円	—	—	+69 円	106.1%

<11月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、9月の輸入量は前年同月比0.4%増の3万8,344tで、うちチルドは15.1%減の1万3,072tと大幅に下回った。フローゼンは11.0%増の2万5,272tと大きく上回った。

農畜産業振興機構によると10月の牛肉輸入数量は、前年同月比11.7%減の3万8,800t（チルド15.8%減・冷凍9.3%減）で、輸入の多くを占める米国・豪州産が共に現地価格の高止まり等から、大幅に減少すると予測している。11月は0.5%減の3万4,400t（チルド6.8%減・冷凍3.7%増）で、チルドは現地価格の高止まりから減少し、フローゼンはひき材中心の引き合いにより前年同月を上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		9月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,831	8,242	82.9%
	米国	4,995	5,802	86.1%
	その他	1,246	1,358	91.8%
	合計	13,072	15,402	84.9%
フローゼン	豪州	12,463	9,725	128.2%
	米国	8,842	7,646	115.6%
	その他	3,967	5,404	73.4%
	合計	25,272	22,775	111.0%

出典：食肉速報 単位：t

<11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による11月の出荷予測頭数は全体で前年同期比92.2%の10万1,400頭で、品種別では和牛8.4%減の5万3,200頭、交雑種0.1%増の2万4,600頭、乳用種13.8%減の2万3,100頭と予測している。東京食肉市場の11月のと畜頭数は8,200頭を予定しています。

<11月の牛枝肉相場見通し>

相次ぐ値上げから、11月も消費マインドの改善は依然として難しいと見られる。一方、気温の低下に伴って鍋物需要が強まるため、スライス材には一定の引き合いが見込まれるが、夏場に高値をつけた豚肉相場が落ち着いたため、値ごろ感競争に直面する可能性がある。

贈答用歳暮の仕入れは、銘柄和牛を中心に11月半ばから引き合いが高まる見通しである。また、交雑種については年末年始の最需要期まで消費期限を保持したいとの思惑から、近年は12月に入ってから本格的な仕入れが行われる傾向にあるため、11月後半にかけて交雑種を中心に弱含みの相場展開が予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,750	B4	1,650～1,800
A4	2,300～2,500	B3	1,550～1,650
A3	2,100～2,300	B2	1,450～1,550
A2	1,800～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,350		
B2	1,150～1,250		

豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は131万3,681頭(前年同月比2.9%増)と前年を上回った。また、9月の豚肉通関数量は7万6,279t（前年同月比3.1%減）と前年を下回り、前月比では3.0%増となった。内訳はチルドが3万4,058t（前年同月比12.4%増）、フローゼンは4万2,221t（同12.8%減）となった。

<10月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	61,800	598	573	548
2日	65,700	567	549	786
3日	55,900	561	546	1,156
6日	64,900	554	547	851
7日	65,600	570	551	1,000
8日	65,700	562	543	853
9日	65,500	547	534	1,030
10日	65,000	554	542	1,118
平均	63,763/日			918/日

気温が下がってきたことから出荷頭数は少しずつ増加基調になった。様々な物品の値上げが続く中、消費者の節約志向は強く、スノ物は良好だが、中部位の荷動きは鈍く、需要は輸入物に推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	72,300	554	535	943
15日	70,600	534	529	1,050
16日	69,500	532	515	934
17日	66,600	523	500	1,021
20日	68,200	507	501	955
21日	68,200	513	508	931
22日	67,400	514	501	767
平均	68,971/日			943/日

連休明けの全国と畜頭数が7万頭を上回るなど、出荷頭数が増えてきたことで相場は軟調な展開となり、上物は500円台前半を付ける日もみられた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	67,200	518	508	858
24日	62,800	542	534	1,044
27日	67,100	565	555	891
28日	67,900	617	595	1,049
29日	65,900	596	590	762
30日	68,100	603	578	944
31日	67,900	617	584	1,093
平均	66,700/日			949/日

気温の低下とともに鍋物需要が盛り上がりから、バラの引き合いが強まった。相場も28日には600円台を超え、全体的に続伸する展開となった。

<11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和7年11月の肉豚出荷予測では132万頭（前年同月比93.6%増）と予測している。当市場の10月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約1,000頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万7,400t（前年同月比99%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,500t（同106.8%）、冷凍輸入量は4万4,900t（同94.0%）と予測。

冷蔵品輸入量は、カナダ産の増加が見込まれること等から、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。同じく3カ月平均は前年同期をやや上回ると予測する。

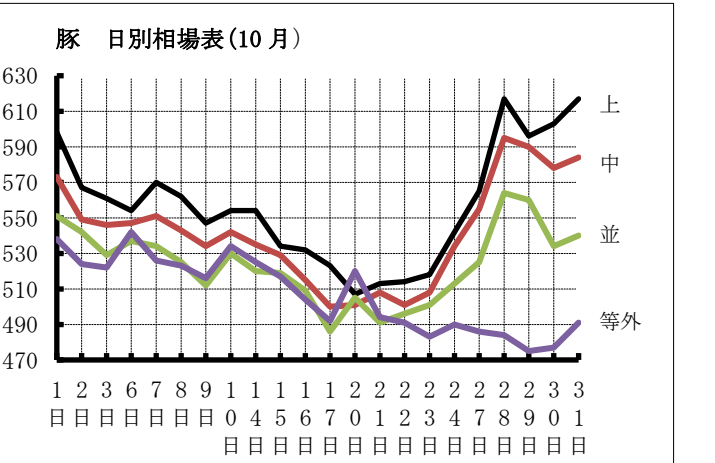
冷凍品輸入量は国内の輸入品在庫が多いこと等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。同じく、3カ月平均でも前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

例年、11月は出荷頭数が多くなる時期であり、現状、需要が強くない限り11月中旬あたりまでは相場が上昇する可能性は低いとみられる。

一方で、末端消費は決して良いとは言えない状況にあるものの、物価高騰の影響による消費者の節約志向の高まりから、引き続きスノ物は引き合いの強い状態を維持すると予想される。

今後は寒波の到来とともに鍋物需要が本格化すると見込まれ、先行して売れ行きの良いかったバラスライス材を中心に荷動きが更に良化し、下旬には3連休と年末に向けた手当て買いが重なることで、相場は上昇することが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格580円前後で展開すると予想する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127